

なえちゃん★ぼーちゃんの

園研究のはな・し

マスコットキャラクター
なえちゃん & ぼーちゃんです！



みなさま、こんにちは！

私たちが今年度学び合ったことをまとめ、**なえちゃん★ぼーちゃん**の園研究のはなしでお知らせします。

子どもたちの成長を保護者・地域の皆様と一緒に見守り、支えてくることができました。1年間ありがとうございました。

研究主題 「幼児期にふさわしい生活の在り方を求めて」(札幌市立幼稚園共通)

副主題 『きらきら わくわくする遊び』の充実とは

視 点 主体的・対話的で深い学びの充実



丁寧な遊びの見取りがなされ、『幼児が遊び込めるための教師の援助と環境構成』・『深い学びへつながる教師の援助と環境構成』において、実践事例を基に話し合ってきました。それぞれに分かってきたことから、ポイントを絞ってまとめました。

幼児の遊び込みを支えるために教師は**丁寧に遊びを見取る**
そのためには..

内面を見る

- 一人一人の思いやこだわり、やりたいことは？
- 困っている？迷っている？何が面白い？何に興味をもっている？
- 幼児同士で共感しているところは？
- 言葉や態度など表現的な姿で判断せず、いろいろな角度から見る。

幼児のありのままの姿を見る

- いつもと同じと固定概念で見るのではなく、今の姿をきちんと見極める。
- 視線や動作、取り組み時間、前後の活動から心もちを探る。
- 友達や教師と関わった後、どんな心の動きが生じているか探る。

実態に合っているか

- 年齢や発達に見合った遊びか。
- 幼児自身でどう行えるか？教師の援助は必要か？
- 技術的には、適当か？できて嬉しいと思える状況で取り組んでいるか？

言葉から

- つぶやき、発する言葉。
- 言葉の本当の意味を考える。

幼児のどんな力になるのか

- その子なりの発見や気づき。
- 友達や教師と関わりから人との関わる力。

教師自身は..

- 見取ったこと、気付いたことを言語化し、フィードバックして整理する。
- 写真から振り返り客観的に見る。
- その子の個性を生かし学びにつなげるためには何が必要か考察する。
- 教師同士で共有し合うことで、他教師の考えも取り込む。



見取りと援助について

- 表情よく遊んでいるか？教師はどんな動きをするべきか。
- 一人一人に向き合い、気持ちや思いに寄り添う。
- 幼児の言葉全てを受け止め幼児の思いを感じ、思い当たることはいろいろ投げかけ思いを探る。
- 意図的な投げかけと教師主導は違うので、教師が意図をもちつつ幼児にとってはどうなのかを考える。
- 幼児のありのままの会話や行動を見取れるように声がけは精選する。
- 個々の力を見極めてできそうなことを考えて援助する。
- 一緒に遊びながら場を整え、遊びが停滞しそうときはタイミングを見計らって次の手を投入する。
- 環境は先を見通して残したり出したりすることを考える。心残りがあっても片付けることで遊びの区切りが付き、新たな環境の構成や遊びの展開が生まれ、育ちにつながることもある。環境を残すこと片付けることは教師がどこに重きを置くかの確な見通しが大事となる。

そして… 丁寧に遊びを見取ることで深い学びは育まれている その要素とは

経験の中で

- 『一人で』『友達と』『見ることで』それぞれが経験することで。
- 遊びを通して失敗の繰り返しの中に。
- こうしたらできるかもという予想は常に存在し、見ていることも予測している中に。
- 先を見通して取り組んだり考えたりすることで。

心情内面の中に

- 楽しい、もっとやってみたいと自分から動き出し楽しさを感じたり感動を味わったりする中に。
- もっと面白くしたい、もっと友達と楽しいことをしたいという、遊びへの思いの強さの中に。
- 周囲と共有し、いろいろな情報を取り入れることで、見方考え方を働かせている中に。
- 心の底から様々なことを感じている中に。

遊びの質や状況の中で

- 自分のやりたいことをしている中で。
- 何か取り組んだり、考えたりしている中で。
- 繰り返しおうちの気づきや発見しているとき。
- 先生や友達を見て新しい遊び方や知識を得た中で。
- 自分で見つけた疑問を追求しようとする中で。
- 試行錯誤している中でひらめいたり、失敗から次を考えたりしている中で。
- 子ども同士が誘い合う中で次にどうするとより楽しいか模索する中で。

人との関わりの中に

- 自分が動いたら友達が同じことをしてくれたと気付く中。
- つぶやきを受け止めてもらえることで、聞いたり見たり一緒に考えたりやってみたりする姿の中。
- 気づきや発見を伝え、応答し合う関係性の中。

まとめとして

深い学びは日常の遊びのプロセスの中にたくさんあることが分かった。特別なことではなく身近にあり、教師自身がいかにか日常的に視点をもって幼児の姿や遊びを捉えるかが重要である。

教師自身が幼児のありのままの姿、心の動きを受け止めて遊びを丁寧に見取り、遊び込める援助と環境構成がなされることで、幼児の中にある深い学びが捉えられ、さらに深めていくことができる。そのことで、幼児の『きらきらわくわくする遊び』が充実し、本園の目指す『幼児期にふさわしい生活』へとつながっていく。